

DO FIELD

Doshisha
University

同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報 [ドウ・フィールド]



2020.11 **18**



スポ健・就職活動座談会



進路決定から就活開始まで

2021年卒業生の就職活動は、企業の採用活動が3月に本格化した途端、新型コロナウイルスの影響で一変しました。4年生たちはこの苦境を、どう乗り越えたのでしょうか。6月のキャリアセミナーに協力いただいた卒業生も交えて、今年の就職活動を振り返っていただきました。なお座談会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン形式で行いました。

若原 本日は皆さんに就職活動体験を話していただき、本誌を読まれるご父母や後輩の学生たちに参考にしていただきたいと思います。まず、自己紹介をお願いします。

寺脇 2018年に卒業してサンスター

出席者	
角 岳人さん	4年次生 医療機器メーカー内定
丸本佳苗さん	4年次生 製薬会社内定
三村 佳さん	4年次生 精密機器メーカー内定
寺脇慎悟さん	2018年スポーツ健康科学部卒業 サンスター株式会社勤務
司会 若原 卓 准教授	

丸本 私は春から、製薬会社のMRとして仕事をします。体育会陸上競技部に所属して、100mハードルをやっています。上林先生のゼミです。

三村 精密機器メーカーに営業職として就職します。柳田先生のゼミに所属しています。

若原 三村くんは神戸大学からスポ健に編入したんだね。

三村 はい。神戸大学医学部保健学科の作業療法専攻に3年次まで在籍して、スポ健の2年次に編入しました。

若原 自身はスポーツ科学系の学部を卒業して大学院で5年間学び、大学で助手と助教を務めてから同志社大学に着任しました。ずっと大学にいたので、一般企業に就職したことも就職活動をしたこともありません。皆さんは入学した頃、卒業後の進路はどう考えていたんですか。

寺脇 私は特に考えていませんでした。一般企業か実業団で選手生活を続けるつもりでしたが、実業団に入った場合、30代前半で引退した後のことを考えると迷いがありました。それで当初の予

※MR = 医薬情報担当者。薬についての知識や情報を医師や薬剤師に提供する製薬メーカーの営業担当者。



ご挨拶 教員父母連絡会会長 高橋美津子

教員父母連絡会の皆様におかれましては、日頃よりの運営に多大なるご理解、ご協力をいただきまして、心より厚く御礼申し上げます。本年度会長に就任いたしました高橋美津子と申します。

2018年にめでたく10周年を迎えた本学部ですが、次の10年に向けて更なる歩みを始めた矢先、新型コロナウイルスという未知のウィルスの脅威にさらされ、様々な困難を強いられた本年となりました。

遠く離れた家族やお子様にも、会いたくても会えない不安な日々を過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。今までと違う生活様式は、不慣れで煩

わしいことも多く、日々の生活に広く影響を受けました。

しかしこのような困難な状況にあっても、学生たちは強く、限られた中で学び、同志社のシンボル「知・徳・体」を胸に、自分の可能性を見つけ、広い世界へ飛び立とうとしています。かつて創設者の新島襄先生が良心と志をもって羽ばたいたように。

本会では、保護者の皆様と教職員の方々とを密に結び、実り多き学生生活のサポートの為に活動しております。広く皆様のご意見、ご協力を頂きたく、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

- ご挨拶 高橋美津子会長
- 01 特集 4年生とOBに聞く! スポ健・就職活動座談会
若原卓准教授/角岳人さん/丸本佳苗さん/三村佳さん/寺脇慎悟さん
- 06 ATHLETE スポ健アスリート列伝
026 山本美杏さん/027 田村魁世さん
- 08 FOCUS スポ健きらり
012 山本結子さん
- 09 LETTER 母から子へ、子から母へ
木原由佳さん/木原万莉子さん
- 10 ACADEMIC 成績通知書の確認方法
- 11 TOPICS 遠藤先生自己紹介/実験機器紹介/田附先生在外研究報告
- 13 ANNOUNCEMENT

【DO-FIELD[ドゥ・フィールド]—同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報—】

[DO] は、行う、行動を起こすこと、能動的、積極的な姿勢を示し、DOSHISHAの「DO」も意識しています。そして「FIELD」は文字通り、フィールド、場の意、スポーツのイメージも喚起させます。DOSHISHAおよびスポーツ健康科学部というフィールドで、何が出来るか、教員、父母、もちろん学生も一緒に考えるための相互のコミュニケーションの場でありたいという願いを込めました。(ネーミング/辻田和樹・父母会員OB)

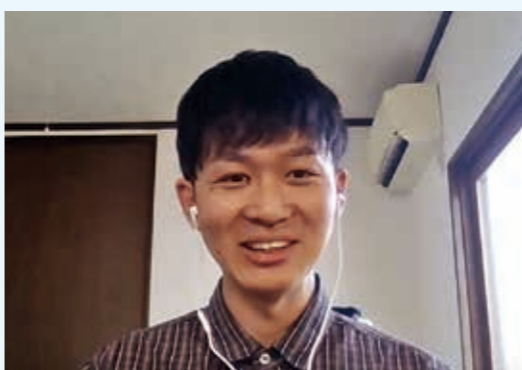


定通り、一般企業に入りました。角 1年生の頃は教師を目指していましたが、しかし1年生の終わりに肩の大怪我で手術をしたことがきっかけで、自分のように体の不具合で苦しむ人を減らすことに貢献できる仕事をしたと思うようになりました。その一つが医療機器メーカーだったのでそこから目指すようになりました。

丸本 私も本当に何も考えずに入学したんですが、1年生の夏頃にMRという仕事の存在を知って興味を持ちました。先輩がMRになったので、MRって何だろうと。

若原 三村くんは、なぜ同志社に編入したんですか。

三村 神戸大学には作業療法士になるため入学しました。リハビリは病気やけがの後に焦点を当てて行うものですが、勉強するうちに興味が予防に向いた。



三村 佳さん

インターンシップに行きました。そのインターンシップは選考には無関係だったんですが、まず2DAYSを行う中で選抜があり、さらに2、3回インターンシップがありました。ほとんど人数が絞られ、密度が濃くなっていく方式でした。

三村 僕は1DAY、2DAYSが多かったです。夏はいろんな企業を見たいと思っていました。1社に多くの時間を割くよりは、短期間で多くの企業を見る方を選びました。秋と冬は医療機器と製薬にほぼ絞りました。医療機器は1DAYの会社が多かったです。ほぼ全部、行っておいたよかったと思います。いろんな企業を知れて、いろんな人と会えます。角くんも言ったように自分次第だし、インターンシップの終わりに質問の機会を設ける企業も多いので、いろんな質問ができた点でもよかったです。

若原 就職活動では、自己分析の勧めを先輩からよく受けると思います。自己分析って何だろう。具体的にはどうしたらいいのかな。

寺脇 私の場合は先輩に見てもらいながらエントリーシートの内容を修正するくらいでした。エントリーシートでは、主に学生時代に頑張ったことや自分の長所を深掘りしますね。それがたぶん、自己分析になるんじゃないかな。

■自己分析の方法

角 ノートは結構書きました。自己分析の本などを読んで、やり方を研究しました。

丸本 私も大まかな流れとしては、人に聞いて紙に書き出す感じでした。大学で陸上競技という力を入れたものがあつたので、その点は書きやすかったです。

三村 僕は就活を始めた頃、自己分析が足りなくエントリーシートに何を書けばいいかわかりませんでした。そこで同じく就活中の友人に連絡して、互いに頑張ったことや長所について話し合っって内容を磨き上げていきました。

ていくのを感じて、予防方面を勉強したいと考えたからです。編入当時はただ勉強を頑張ろうと思うだけでした。就活の時期が近づいてから、自分が興味をもって勉強してきたことを生かせる会社に入れたらいいなと思って行動しました。

若原 作業療法士を志したのは高校生の頃ですね。その頃と大学入学後とは、関心が違ってきただけだね。

三村 父が放射線技師だったので、僕も子どもの頃から病院やリハビリテーション室の雰囲気を知っていました。父から作業療法士に向いているのではと言われたり、病院のいろんな人と関わったりする中で、作業療法士に興味を持つようになりました。予防へ興味移った大きなきっかけは、神戸大在籍時の病院実習です。患者さんが苦しんだり後悔したりする姿を目の当たりにして、病気になる前の段階にアプローチをする方が、より広く、より多くの人の健康に貢献できるのではと考えるようになりました。

若原 角くんの考えと通じるところがありますね。では実際に就職活動を始めた時期、あるいは今の道を意識し始めた時期と活動内容を教えてください。

寺脇 3年生の全国大会が終わって、11月頃からです。最初は製薬、日用品、繊維、商社など6社でインターンシップに参加しました。スタート時期としては普通だったと思いますが、意識の高い友人たちは夏から動いていたよう

角 自己分析とは、自分の人生をしっかり整理することだと思います。僕は家族、高校や中学時代の友人、先生などたくさんの人に聞いて、自分の人生を客観的に整理していました。

若原 書き出すの？



若原 卓准教授

角 ノートは結構書きました。自己分析の本などを読んで、やり方を研究しました。

丸本 私も大まかな流れとしては、人に聞いて紙に書き出す感じでした。大学で陸上競技という力を入れたものがあつたので、その点は書きやすかったです。

三村 僕は就活を始めた頃、自己分析が足りなくエントリーシートに何を書けばいいかわかりませんでした。そこで同じく就活中の友人に連絡して、互いに頑張ったことや長所について話し合っって内容を磨き上げていきました。

丸本 3年の11月頃に、秋・冬のインターンシップへの応募を始めました。その時点で医療機器メーカーと製薬企業の2つに絞っていて、最終的には翌年3月に本格的に動き出す感じでした。

角 僕は一浪しているのですが、2年生になってから、当時3年の友人と一緒に合同説明会などに行くようになりました。本格的に就活を始めたのは3年の夏です。

三村 僕は3年生の8月から、合同説明会やインターンシップに行き始めました。その時からインターンシップは毎月参加しました。スポ健で学んだことを生かしたかったし、食品メーカー、スポーツ用品メーカー、医療機器メーカー、製薬会社を回りました。

■インターンシップを有効活用しよう

若原 皆さん、インターンシップには行ったと思います。期間はどのくらいでしたか。

寺脇 私のようにスポーツをしていると、夏は大きな大会が多く、インターンシップにはあまり行けません。私は冬の2DAYS、3DAYSが多かったです。2、3日あれば、その会社と一緒に選考を受けている人たちの雰囲気はわかります。短期間でもある程度、会社の課題やビジョンなども分かってくるでしょう。雰囲気を知る意味が大

■オンライン面接の心構え

若原 さて、今年に限っては新型コロナウイルスのために、今までの就職活動とは違う面があつたと思います。面接はほとんどオンラインになりました。そのための対策は何かありましたか。あるいは、オンライン面接を経験して気づいたことはありますか。

角 面接の練習はしました。携帯で録音したものを客観的に聞いて、長さや伝わりやすさを確認したり。鏡の前で、話す練習もしました。オンラインと対面の違いはあまり考えず、要は人との対話だと考えていました。

丸本 私はオンラインを意識して、背景が真っ白になるように部屋の模様替えをしました。2、3人で面接を受けた時には気づいたこともありましたが、例えばオンラインでは他の人が話しているとき当事者意識が薄れるのか、微動だにしない人がいたんです。それよりは、自分に質問が振られていない時でもリアクションを取る方が好印象だなと思いました。

三村 普通の面接でも同じですが、第一印象が良くなるように、自分の見せ方、見え方をより意識するようになりました。画面に映る自分の背後には自分以外の情報を入れないようにしたり、

きいと思うし、同じ業界なら会社による違いを知ることができません。



寺脇慎悟さん

角 僕は夏のインターンシップには、1社しか行っていません。他は部活もあり、なかなか時間を作れませんでした。冬も1DAYを3社行っただけです。

若原 1DAYはどうでしたか。

角 志望度の高い会社しか行ってないので、濃い情報を集めるため担当の方にたくさん質問をしました。1DAYでもかなりの情報を得たり早期選考をもらえたりしたので、自分の姿勢次第だと思います。ある企業に行った際にも、社員の方に積極的に質問していたら、たまたま営業部長が通りかかり、本来なら入れない所に入れてくださったこともありました。

丸本 私は2DAYS、3DAYSを4社行って、入社を決めた会社にもイ

そばに照明を置いて、少しでも肌ツヤがよく映るようにしたり(笑)。

若原 素晴らしいですね。そういうのは、スポ健の教員でも、オンライン授業や動画撮影をするために、ライトを買った先生もいましたよ。ライトはちょっと下から当てるのがいいとか、工夫してやっているようです。顔色は重要かもしれないね。

丸本 距離も大切だと、企業の人に言われました。カメラに近すぎるのは圧になるそうです。

寺脇 オンライン面接については、よく学生さんから「企業の雰囲気が分からない」と言われます。これは企業側の一つの課題でしょう。もう一つは通信環境の不具合によって、学生さんの魅力がうまく伝わらなかつたり、対話があまく成立しなかつたりする問題です。企業の魅力を伝えるにしても、本来なら会社へ行く途中の景色やオフィスの様子など、情報は多方面にあります。でもオンライン面接は、ログインしたらいきなり始まる。その辺で学生さんは、情報を得る機会が減っているかもしれないですね。

三村 僕は学生3人と面接官1人のグループ面接をしたんですが、自分からは面接官しか見えなくて、他の学生は声だけ聞こえる状態でした。ちよつと雰囲気がかみづらかつたです。

若原 今日の参加者は画面の中で話すことが上手ですね。オンラインでは、話すのが上手な人とそうでない人がい

ます。すぐ髪を触つてしまう人や、ちょっとした動きが気になる人、目線が定まらない人とかもいる。
寺脇 皆さんは優秀だと思います。そう考えると、私たち会社側も学生さんから見られているわけですね。

■企業を選ぶ決め手

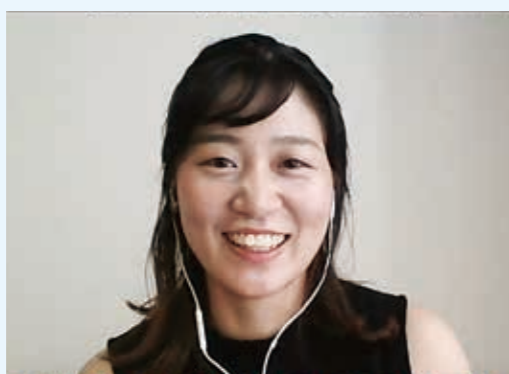
若原 そうして面接などの就活を続けた結果、企業からはどんな点が評価されて内定に至ったと感じていますか。

角 礼儀正しさと積極性、自主性を評価していただきました。他の学生たちと一緒に面接を受ける時も、周囲に流されないように意識はしていました。

三村 編入経験も含めて、これまでよく考えて行動してきたよだから今後も期待する、と言われました。編入した頃に飛び込み営業の有給インターンシップをしたことがあり、自分の新しい可能性に気づいたり、成功体験から自信を得たりという経験も話していましたが。あとは印象がソフトで非常に営業向きなので、ぜひうちに来てほしいと言っていました。

丸本 面接を通じて、自分の計画力と実行力について興味を持っていただけたかなと思います。部活についても、目標に向かってミクロからマクロの計画を立てた経験などは、会社に入ってから生かせると言っていたことでもあります。

寺脇 私は大学3年で受けた右ひじの



丸本佳苗さん

親にも相談しました。最終的には私の意思を尊重してくれました。
若原 就職活動全体を振り返って、親からのサポートや関わりにはどんなものがありましたか。
丸本 全体的に私のやりたいようにやらせてくれました。自粛期間は実家にいたので、オンライン面接の際はパソコンやWiFiを私に優先的に使わせてくれたり、静かにしてくれたりと協力してくれたことが、ありがたかったです。

角 僕の親は教師なので、企業についてのアドバイスはあまり無く、ただ話を聞いて僕の決断を尊重してくれた感じですか。自己分析の時もひたすら話を聞いてくれたり、疲れた時も弱音をそのまま受け止めてくれたりしたことが、すごくありがたかったです。
三村 僕も親から何も干渉されません

手術を乗り越えて、スポーツの成績を出したことを面接で話しました。そこから逆境に対する耐性や行動力を、ある程度評価していただいたのではと思います。

若原 皆さんの中には複数社から内定をもらった人もいるかもしれませんが、最後の1社に絞った決め手は何ですか。

寺脇 私がサンスターに決めた理由は2つです。日用品を通じて人の健康に常に携わっていたという思いが一つ。もう一つは人を大事にする会社である点です。社員の健康を大切にしている、若手のうちからいろんな仕事を任せてもらえる環境だと思いました。実際、今年で3年目ですが、いろんな業務を任せてもらっています。

若原 人間とは面白いもので、そういう環境を与えられると、意外に対応できるものだと思います。目標を先に置くと、それに合わせて成長するようになるかもしれない。

角 僕はシンプルに、自分の成し遂げたいことができる環境がいいなと思っていました。それが早期診断の検査機器でした。早期診断にも予防にも携われるし、リハビリにも関わります。あとは地元にある会社という点と、本当に人を大切にしてくれる社風だと選考時に感じたので決めました。

若原 具体的に、大切にされていると思えることがあった？

角 はい。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出された時、僕は他社の面接と

でしたが、僕からは親にたくさん相談しました。志望業界の会社に詳しい父親には、それぞれの会社の雰囲気を知りたかったです。聞いてくれる存在というのが大きかったです。親からのサポートには、総じて満足しています。寺脇 私はコロナ禍とは関係ない就職でしたけれど、私も親には不満はありませんでした。特別親に求めるものは無かったかもしれませんが、就職活動で悩んでいる時などは、親の後押しはありがたいと思います。

■内定・入社がゴールではない 社会人としての抱負を持つ

若原 親はあまり口出しせず、受け止めることが大切だと思います。さて、たとえばもう一度就職活動を行うとすると、気をつけたいことはありますか。寺脇 私は業界や企業の研究に時間を割きすぎたので、テスト対策の勉強をもっとやっておけばよかったです。

角 もっと社会人の方と話しておけばよかったです。コロナの状況を考えると、オンラインで社会人の方とつながれる環境がどんどん可能になってくるので、そういう機会を有効に生かすといいと思います。OB訪問も最初は東京へ行行って、お金がすごくかかりましたから。

三村 僕もOB訪問はもっとすればよかったです。周囲の友だちからも、そういう卒業生の方たちは就活終了後

重複していたんですが、他社からは東京まで来るように言われた中で、僕が決めた会社はオンラインで対応してくれました。宣言前でも、人事の方に質問をする度にとっても丁寧に対応してくださったので、この会社がいいなと思いました。



角 岳人さん

若原 角くんは、最後に別の1社と迷っていた時がありましたね。何が決め手になりましたか。
角 一つはやはり人を大切にしてくれるところ。もう一つは、けがに関わる仕事か病気に関わる仕事かで迷った際、けがを治すのも命があつてこそそのことなので、病気の人を助ける仕事を最終的に選びました。その方が、より多くの人を助けられると思いました。

丸本 私はもともと業界を絞っていたこともあったので、業務内容ではなく、

も交流があると聞きます。
丸本 私は始めたのが遅く、3年生の11月からインターンシップの応募をしようかなと思っていたら、1週間後にはSPI(適性検査)があつて何もできませんでした。業界研究も、もっと早くから始めれば後で楽だったかな。後輩の皆さんも、少しずつ早めに動いた方がいいと思います。

若原 今年はコロナの影響で、出だしが遅かった人は大変だったとよく聞きます。今の3年生はたぶん早めに動いているでしょう。でもみんなの話を聞いていると、3年生たちも、コロナやオンラインの影響はあまり気にせずやればいいのかという感じですね。

角 実際オンライン面接には制約が多いです。対面の方が、やはり空気感や伝わりやすから。ですが、人との対話というおおもとは対面と一緒です。心の中では対面と変わらないと思つて望んだ方が楽にいかれると思います。

三村 状況が変わって早めに動く人が増えた結果、インターンシップの競争率が高くなっているのではという心配があります。でも、落ちてもあまり気落ちしないようにしてほしいですね。

若原 入社後、社会人としてどう仕事をするのが大事だと、寺脇くんが先日のセミナーで話してくれました。私の心に響きました。皆さんの、社会人としての抱負を聞かせてください。
角 一つには、どんな環境にあつても自分で切り拓ける人間になりたい。も

福利厚生が手厚くて長く働けそうに思えた点で決めました。選考途中からよく人事の方が連絡をくださり、その都度いろいろな不安が解消できた点も大きかったです。

若原 女性の目線でも考えたんですか。
丸本 はい。その会社では、産休や育休から100%の女性社員が復帰します。時短勤務も子どもが小学校3、4年まで可能です。それらの点からも、長く働けるかなと思いました。

三村 僕も決め手は二つです。一つ目が興味のある分野に携わることができ、仕事ができること。予防や超早期診断に注力している事業があり、最終的にはそこで働きたいという希望を面接でも伝えました。もう一つは、自由な社風だった点です。副業をしている社員さんも多いようです。

■親のサポートはどこまで必要か

若原 最終的な決断に至るまで、ご両親に相談はしましたか。

三村 僕はほぼ自分で決めて親に連絡したら、いい会社だからよかったと言つて、後押ししてもらつた感じですか。

丸本 私は本当に迷っていたし、企業のIR情報などもまだあまり読めないもので、親に相談しました。最終的には私が決めて、親も同意してくれました。角 僕は少し相談しました。

寺脇 私は最後に2社で悩んでいて、

う一つは、現状に満足しない人になりたい。常に前を向いていきたいです。
丸本 MRの試験に合格することが一番近い目標です。合格後も地域や、担当ドクターの患者さんに合う提案のできるMRになることが憧れます。

三村 将来、自分の子どもや孫に語れるような何かを成し遂げたいです。
若原 寺脇くん、後輩へ何かアドバイスはありますか。
寺脇 今はネットからいろんな情報を取れますが、面接では自分の言葉が発することが大事だと思います。企業は学生さんのことを知りたいわけで、きれいなお手本のような言葉を求めているわけではないと思います。面接では、もっと自分の思いを込めて体験や考えを伝えてほしいです。

若原 繕って仮に入社できても、あとあと大変だね。
寺脇 そういふ人は、内定をもらうのがゴールになっています。偽った自分を評価してもらつて入社しても、その後はお互い良い影響を与えないでしょう。大切なのは自分の本心で話すこと。

今の私は採用担当ですが、この仕事は、会社も学生さんたちもお互いが幸せになれる環境作りをする仕事だと思っています。そういった広報や制度を作っているような人材になりたいと思っています。

若原 皆さん今後の活躍を期待しています。今日は、ありがたうございました。

※IR = 企業が株主や投資家向けに経営状態や財務状況、業績の実績などを広報するための活動のこと。